

## 1 北但地域における適用可能性

### 1.1 基本方針

廃棄物の中間処理は、古くは伝染病対策のため無害安定化を図る技術として焼却技術の導入が開始された。その後、焼却技術は、高度経済成長期を迎え、衛生的な生活環境の維持に加え、多量化する廃棄物に対し、減量・減容化を主眼とした中間処理技術として効率化を図る改良が進められてきた。

今日では、地球規模における環境と資源の保全に対する危機感から、これからの持続的発展を目指すべく、循環型社会を形成していくことが重要なテーマとなり、「天然資源の消費抑制」、「環境負荷の低減」、「リサイクルの推進」、「建設費・維持管理費の節減」等、廃棄物の処理をとりまく課題はさらに深刻化している。

これらを踏まえ、広域ごみ・汚泥処理施設の整備における基本方針としては、下記の方針が決定されている。

- ◆基本方針 1：環境保全・公害防止対策に万全の措置を講じた施設とします。
- ◆基本方針 2：ごみ・汚泥を確実・安全・安定的に処理できる施設とします。
- ◆基本方針 3：廃棄物の資源化を図り、循環型社会の形成に資する施設とします。
- ◆基本方針 4：周辺環境と調和した施設とします。
- ◆基本方針 5：住民から信頼される施設とします。
- ◆基本方針 6：経済性に優れた施設とします。

## 1.2 北但地域への適用比較

施設整備の基本方針を踏まえると、北但地域に整備する広域ごみ・汚泥処理施設については、周辺住民の理解を得られるよう、十分な環境保全・公害防止対策の確保と、確実・安全・安定的な処理ができることが、必要不可欠な条件として求められる。また、極力、資源回収やエネルギー利用が図れる方式とすること等も挙げることができる。

各種のごみ処理方式について、施設整備の基本方針を踏まえ、以下の点から整理を行う。

表 1 整理の項目（案）

基本方針	整理の項目（案）
環境保全・公害防止対策	①公害防止 -1 排ガス -2 排水 -3 悪臭 -4 騒音・振動 ②温暖化効果ガス排出抑制
確実・安全・安定的な処理	①確実・安定的な稼働 -1 施設整備実績・施設稼働実績 -2 ごみ質変動等への対応 -3 維持管理性 ②安全性 -1 労働安全衛生性（施設外への影響防止を含む） -2 防災性（地震・爆発・火災等） -3 事故、緊急停止時の安全性
資源化	①北但地域の収集体系への適合性 ②資源回収・エネルギー回収 ③回収資源・エネルギー利用先の確保・安定性 ④最終処分物
周辺環境との調和	①周辺環境に配慮したデザイン
住民からの信頼	①施設の運転管理状況の透明化（情報公開）
経済性	①建設費 ②維持管理費

各詳細の項目を整理した結果を、次頁の表に示す。

表 2 有機性廃棄物の各処理技術の整理結果（案）

基本方針	焼却処理 (ストーカ式・流動床式)	メタン発酵 (+焼却処理)	炭化	飼料化 (+焼却処理)	堆肥化 (+焼却処理)
環境保全・公害防止対策	○	○	○	○	○
確実・安全・安定的な処理	○	△	△	△	△
資源化(エネルギーの安定利用, 最終処分)	○	△	△	△	△
周辺環境との調和	○	○	○	○	○
住民からの信頼	○	○	○	○	○
経済性	○	△	△	△	△
まとめ	○	△	△	△	△
	基本方針全般に渡り、優れていると考えられる。特に、確実・安全・安定的な処理、資源化、経済性において、優れていると考えられる。	環境保全・公害防止対策、周辺環境との調和、住民からの信頼について焼却処理と同等であると考えられる。確実・安全・安定的な処理、資源化、経済性については、焼却施設より劣る評価となっている。	同左	同左	同左